渋川郷学　５人の師匠たちが生きた時代

年		天皇	将軍・内閣総理大臣	渋川郷学５人の師匠					時代のできごと（教育・学問を中心に）		
和歴	西暦			吉田芝渓	周休竹渓	木暮足翁	高橋蘭斎	堀口藍園	渋　川	日　本	世　界
寛延 3	1750	桃園	徳川家重	寛延3 1750							
宝暦 1	1751									国学・蘭学の発達	モンテスキュー「法の精神」(1748)
5	1755										
10	1760									賀茂真淵「万葉考」「国意考」(1760)	イギリス産業革命(1760年代～)
12	1762		徳川家治								ルソー「社会契約論」(1762)
明和 1	1764	後桜町									
2	1765									上田秋成「雨月物語」(1768)	
7	1770								渋川村干ばつ(1770、1771)		
安永 1	1772	後桃園								杉田玄白、前野良沢らが中心となり「解体新書」刊行(1774)	
4	1775				安永4 1775				芝渓、昌平黌の聴講生となる(1776頃)		アメリカ独立戦争(1775) アメリカ独立宣言(1776)
9	1780									平賀源内、摩擦起電器(エレキテル)の復元に成功(1776)	アダム・スミス「国富論」(1776)
天明 1	1781								浅間山大噴火。泥流により川島村、中村、半田村など被害甚大(1783)	天明の飢饉(1782)	
5	1785								昌平黌の学頭をつとめた平沢旭山が渋川に来る。芝渓宅に3年余滞在。芝渓らに経史・詩文・国学・経済・養蚕・開墾等を教授(1785)	幕府、蝦夷地調査を命ず(1785)	パリ条約(アメリカ合衆国の独立承認)(1783)
7	1787								芝渓、この頃から中之町で近隣の師弟の教育を始める	寛政の改革、倹約令(1787)	
寛政 1	1789	光格	徳川家斉			寛政元 1789			芝渓「養蚕須知」(1789)	棄捐令(1789)	フランス革命(1789)
2	1790									寛政異学の禁(1790)	
7	1795								芝渓「開荒須知」(1795) 周休、上野東叡山学寮に入り仏教等を学ぶ(1795)	林子平、「海国兵談」「三国通覧図説」の版木を没収され蟄居(1792)	
11	1799						寛政11 1799			本居宣長「古事記伝」完成(1798)	
12	1800										
享和 1	1801								伊能忠敬、杢ヶ橋関所内の測量を拒否される(1803)	華岡青洲、世界で初めて麻酔剤を用いて乳がん手術に成功(1804または1805)	
文化 1	1804								周休、遍照寺住職に(1804)		ナポレオンがフランス皇帝に即位(1804)
2	1805			文化8 1811							神聖ローマ帝国滅亡(1806)
7	1810								足翁、この頃私塾を南横町に開く。子弟の教育にあたり「横町の先生」と呼ばれた	間宮林蔵ら樺太探検(1808)	
12	1815										
14	1817								1812年に全焼した遍照寺を周休らの尽力で再建(1817)		
文政 1	1818	仁孝						文政元 1818		伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」完成(1821)	
3	1820									小田原藩主、二宮尊徳を登用(1822)	
8	1825									シーボルト「鳴滝塾」開設(1824)	
11	1828									異国船打払令(1825)	
13	1830								周休の漢詩集「竹渓小稿初編」、足翁の書により発行(1830)	シーボルト事件(1828)	
天保 1・2	1831								足翁、華岡青洲に弟子入り(1830)。高野長英とも交流。医学を修めて渋川に高野長英、天保6年頃から幾度か渋川を通り吾妻方面へ。その折りに足翁家に逗留したと思われる	天保の飢饉、宇田川榕菴「植学啓原」(1833)	
6	1835								蘭斎、この頃私塾を開いていたと思われる(年代不明)		
11	1840		徳川家慶						蘭斎、宇田川榕菴に弟子入り。渋川へ帰り医師として開業(年代不明)	大塩平八郎の乱(1837) 高野長英ら蘭学者への言論弾圧、蛮社の獄(1839)	アヘン戦争(1840)
										攘夷運動の展開	南京条約でイギリスに香港割譲(1842)
13	1842								周休、石原寺住職になる(1842)	天保の改革、倹約令、株仲間の解散令、渡辺崋山自刃(1841)	
弘化 1	1844								周休、延命寺住職になる(1844)		
2	1845								周休の「小隠集」、藍園が全部校訂に関わって発行		
嘉永 1	1848	孝明								蘭学から洋学へ	
3	1850								足翁、この頃幕府役人に開国を促す建白書を提出するも無視される		太平天国の乱(1851)
										開国・幕末の動乱・幕府の滅亡	
5	1852				嘉永7 1854				藍園、近隣の人々からの願いを聞き入れ家塾を開く(1852)	米ペリー、浦賀に来航(1853)	
安政 1	1854		徳川家定						利根川・吾妻川筋の通船認可、渋川河岸開設(1854)	日米和親条約(1854)	クリミア戦争(1853)
2	1855									吉田松陰、幽閉中の実家で講義(1856)	
4	1857		徳川家茂						藍園、江戸に遊学(1857)。その後京都にも赴く	江戸にコレラ大流行、安政の大獄(1858)	
万延 1	1860										ダーウィン「種の起源」(1859)
文久 1	1861					文久2 1862				桜田門外の変(1860)	アメリカで南北戦争(1861)
										長州藩士の伊藤博文らイギリスに留学、薩英戦争(1863)	アメリカで奴隷解放宣言(1863)
万治 1	1864									池田屋事件(1864)	
慶応 1	1865										
2	1866								渋川宿上之町より出火、106軒焼失(1866)	幕府、海外留学を許可(1866)	
3	1867		徳川慶喜							大政奉還、明治新政府樹立(1867)	アメリカがロシアからアラスカを買収(1867)
明治 1	1868	明治							世直し勢、渋川地域の富商、富農を襲う(1868)	明治維新・地租改正・自由民権運動・殖産興業・文明開化	
									藍園、彰義隊残党の助命に成功する(1868)	神仏分離令、戊辰戦争(1868)	マルクス「資本論」(1867)
									渋川村ほか9ヶ村が前橋藩に編入される(1868)	昌平学校を大学校とする(1869)	スエズ運河開通(1869)
3	1870									大教宣布の詔(神道国教化)(1870)	プロイセン=フランス戦争(1870)
4	1871								藍園、吉田芝渓の墓への道しるべを建てる(1871)	廃藩置県、文部省設置(1871)	ドイツ帝国成立(1871)
5	1872								藍園、学制発布により家塾を閉じる(1872) 渋川小学校設立(1873)	福沢諭吉「学問のすゝめ」刊行、学制の発布(1872)	
8	1875										
									藍園、渋川村に藍園学舎を開く(1877)	西南戦争(1877)	
15	1882						明治15 1882		渋川村下之町に南北の新道が開かれ四ツ角ができる（1883）	琉球藩・琉球王国廃止、沖縄県設置(1879)	
											清仏戦争(1884)
18	1885		伊藤博文						渋川村、石原村、湯上村(現・行幸田)、中村が連合して尋常小学校を設立(1885)	坪内逍遙「小説神髄」刊行(1885)	
19	1886								門弟らが藍園の詩をまとめた「藍園詩鈔」を刊行する(1886)		フランス領インドシナ連邦成立(1887)
21	1888		黒田清隆						町村制が施行され、渋川町・金島村・古巻村・豊秋村が誕生(1889)	大日本帝国憲法公布(1889)	
24	1891		山県有朋					明治24 1891			シベリア鉄道起工(1891)
25	1892		松方正義								
26	1895		伊藤博文						門弟らにより「堀口藍園翁碑」が渋川八幡宮境内に建立される(1895)	日清戦争(1894)	
27	1896								金島村や古巻村にも校舎ができる(明治20年代)		第1回国際オリンピック大会(1896)

○主な引用及び参考文献：「渋川市誌第2巻　通史編・上　原始～近世」、「まんが渋川の歴史」、「石像物と文化財」、「郷土渋川第9号」、浜島書店20年2月5日発行「新詳日本史図説」